

## ◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例(共に女性, 60歳代及び70歳代)あり, 型別はO26(VT1)及びO157(VT1・VT2)です。推定感染経路は, 不明及び経口感染です。本年の累積報告数は11例となっています。
- 風しんの報告が6例(男性3例(20歳代 2例, 30歳代 1例), 女性3例(20歳代, 40歳代, 50歳代))あります。本年の累積報告数は134例となっており, 風しんが定点把握疾患から全数把握疾患に変更(平成20年)以降, 最も多かった平成24年の累積報告数(26例)と比べて, 約5.2倍となっています。全国の累積報告数も11, 541例と平成24年(2, 391例)と比べて, 約4.8倍となっています。今後の動向にご注意ください。

## ◆ 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は0.76(31例)で, 第19週(5月6日～5月19日)以降, 7週連続で増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 二類: 結核 2例(肺結核 1例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 1例  
【1月以降の累積報告数 174例(肺結核 94例, その他結核 42例, 潜在性結核感染者 38例)うち喀痰塗抹陽性 49例】
- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 11例】
- 五類: 風しん(検査診断例 3例, 臨床診断例 3例)6例【1月以降の累積報告数 134例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.03	2
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.10	168
	② 水痘	0.98	40
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.93	38
	④ ヘルパンギーナ	0.76	31
	⑤ 突発性発しん	0.71	29
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

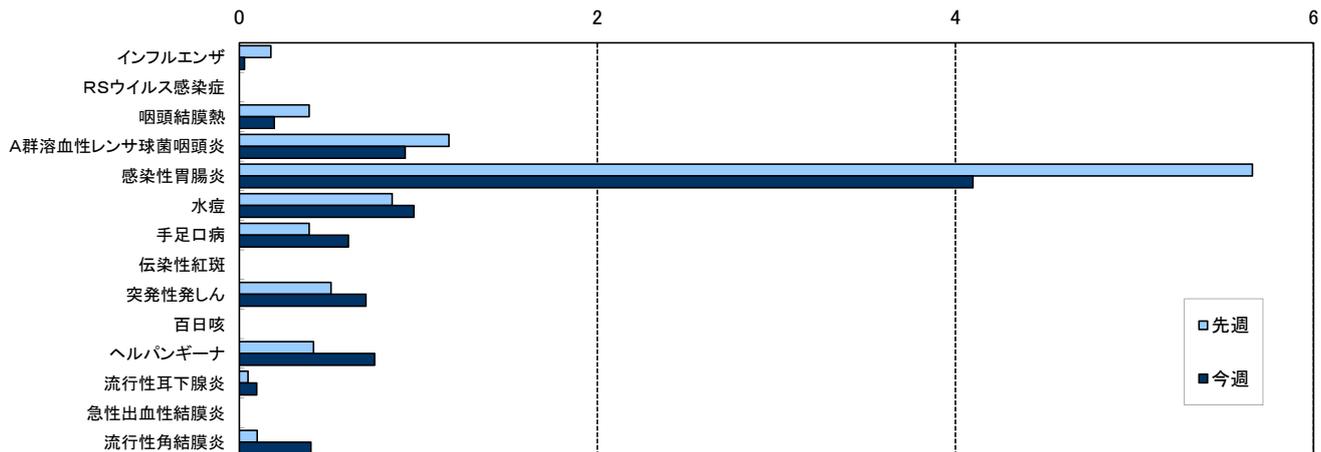
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

(注) 京都市のデータは, 平成25年6月27日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

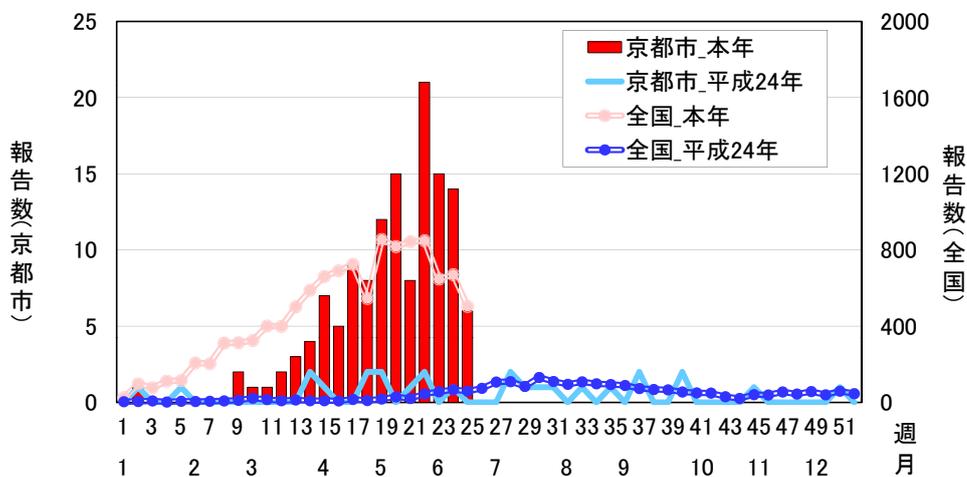
## 1 今週(第25週)と先週(第24週)の定点当たり報告数の比較



## 2 風しんの推移

今週の報告数(累積報告数)  
平成25年6月28日現在

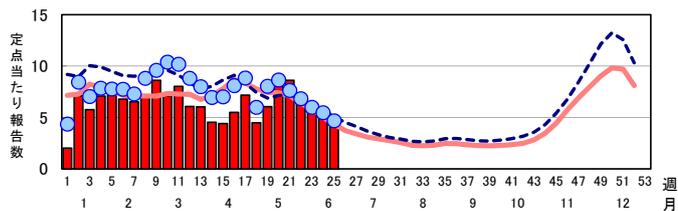
京都市	6例 (134例)
京都府(京都市を除く)	8例 (76例)
近畿6府県	223例 (4221例)
全国	546例 (11541例)



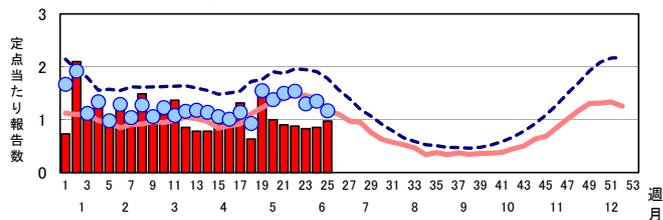
## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

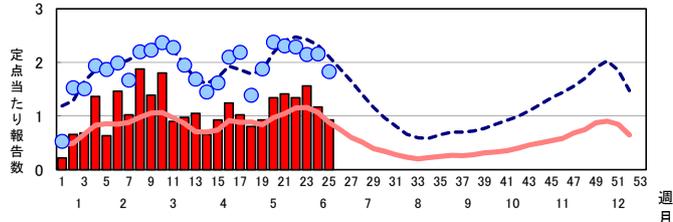
1 感染性胃腸炎



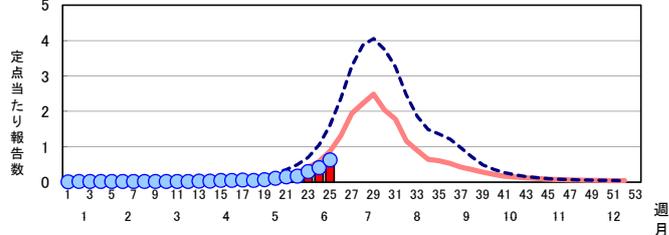
2 水痘



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

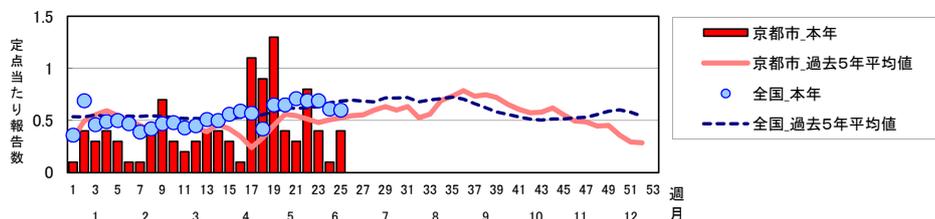


4 ヘルパンギーナ



<眼科定点>

流行性角結膜炎



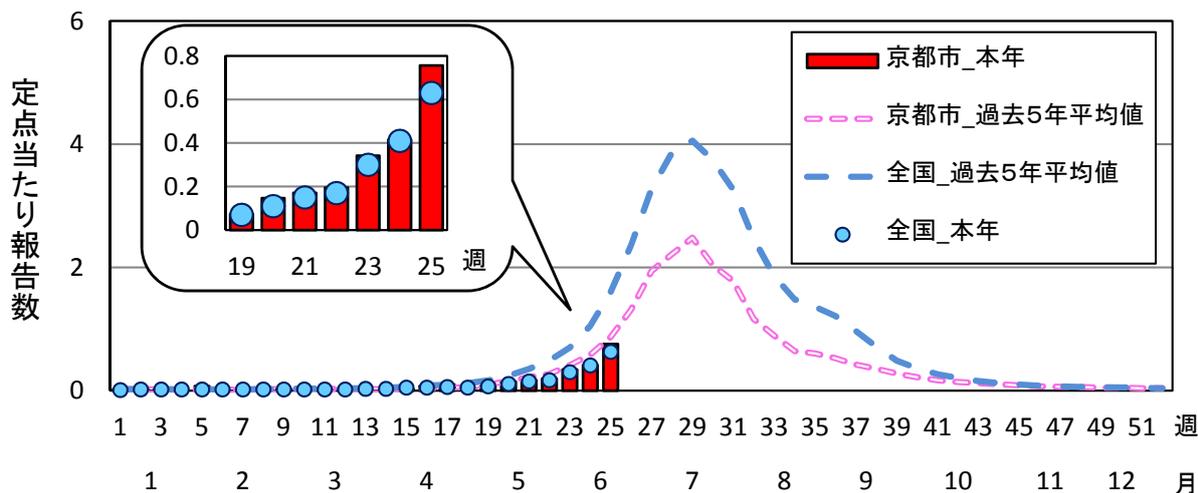
# 第25週(6月18日～6月23日)トピックス: <ヘルパンギーナ>

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は0.76(31例)で、第19週(5月6日～5月19日)以降、7週連続で増加しています。全国も同様に増加しています。ヘルパンギーナは季節性が明確で、毎年7月から8月にかけて流行しますので、今後の動向にご注意ください。

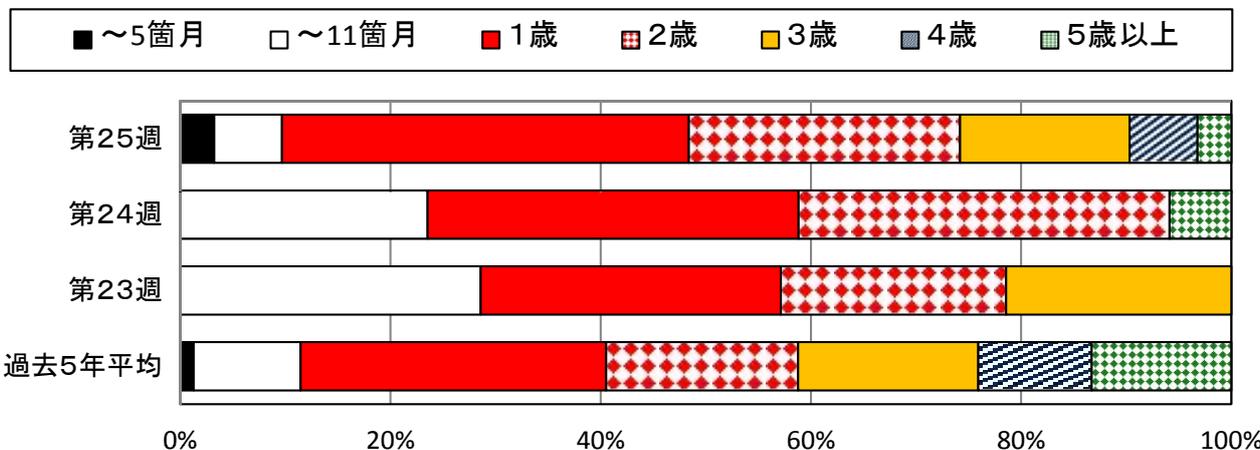
年齢階級別にみると、1歳が12例(38.7%)で最も多く、次いで2歳 8例(25.8%)、3歳 5例(16.1%)となっています。

都道府県別にみると、41都道府県で前週より増加しています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移

